

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第2回坂戸市自殺対策計画審議会
開 催 日 時	令和5年3月20日(月) 13:30~15:00
開 催 場 所	坂戸市立市民健康センター 機能訓練室
会 長 の 氏 名	三ヶ田 猛
出席者(委員)の 氏名・出席者	山路 真佐子、小島 慎介、森田 博恵 三ヶ田 猛、新井 勇、正田 実、井手 和夫、松原 愛子、力石 まり 子、坂田 勉、武藤 真紀 計11名
欠席者(委員)の 氏名・欠席者	河内 裕介、竹原 陽一、大竹 智英、内藤 武 計4名
傍 聴 者 数	0名
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	こども健康部長 高山 康彦 次長兼保育課長 井上 晋 市民健康センター所長 有田 さおり 市民健康センター副所長 倉持 雅史 市民健康センター所長補佐 片桐 美佳 市民健康センター成人保健係係長 小鹿野 史昭 市民健康センター成人保健係主任 藤澤 絵美 市民健康センター成人保健係技師 横田 英花
会 議 次 第	1 開会 2 挨拶 3 審議事項 (1) 自殺者の現状について (2) 第2次坂戸市自殺対策計画策定に係る「こころとからだの健康に関する市民アンケート」の結果について (3) 子育て世代に関するアンケート調査の結果について (4) その他 4 閉会
配 布 資 料	<事前配布> 資料1 坂戸市の自殺者の状況 資料2 こころとからだの健康に関する市民アンケート調査報告書(速報版) 資料3 子育て世代に関するアンケート調査の結果について(速報版) 資料4-1 自殺総合対策大綱(概要) 資料4-2 自殺総合対策大綱(本文) 資料5 第2次坂戸市自殺対策計画策定スケジュール(令和5年度)  <当日配布> ・令和4年度第2回坂戸市自殺対策計画審議会次第 ・坂戸市自殺対策計画審議会委員名簿

		議 事 の 経 過
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項	
事 務 局	令和4年度第2回坂戸市自殺対策計画審議会を開会します。(出席者11名、欠席者4名、坂戸市自殺対策審議会条例第6条第2項の規定により会議は成立)	
事 務 局	審議事項(1)説明	
委 員	自殺者数が減少しているが、その要因は何か。	
事 務 局	直接的な要因については明らかではありませんが、新規の取り組みとして、市ホームページに大きな見出しで相談窓口やこころの体温計というストレスチェックを周知いたしました。アクセス数も大幅に伸びていることから要因の一つと考えています。	
事 務 局	審議事項(2)説明	
委 員	問45「うつ病のサインを知っていますか」という問いに、3分の1程度が知らないと回答している。うつ病に関する勉強会や講習会などの活動は考えているか。	
事 務 局	うつ病のサインだけではなく、自殺に傾いた方を支援するため、市民向け、支援者向けにゲートキーパーの養成講座を実施しています。次年度以降も継続して実施予定です。	
会 長	問54「あなた自身はどの程度幸せですか」の部分、点数で聞くことも一つの引き出しのきっかけになると感じた。 自由記述の部分もたくさんのお話を答えていただいている。この中からいろいろ拾えることとかもたくさんあるのではないかと。	
委 員	問54の点数だが、低い人たちに特徴があるか。	
事 務 局	今回のアンケート結果は速報版であり、現在クロス集計等の結果を分析している段階です。今後、完成版として報告させていただきます。	
委 員	問44「相談しない理由は何ですか」という問いだが、若い年代の方に相談しても解決しない、何も変わらなかったという相談などのアクションを起こしたが、受け入れてもらえなかったと読み取れる内容がある。そういった部分に対する対策が今後必要であると感じる。	
事 務 局	審議事項(3)説明	
委 員	アンケートの対象だが、資料3は子育てをしている方が対象で、資料2は無作為に抽出したのか。完全に無作為での抽出の場合、資料2のアンケートにも子育てをしている方が入っている可能性があるか。 アンケートを比較、分析をする際に対象の年代やバックボーンを確認する必要がある。	
事 務 局	資料2は無作為に抽出しており、資料3の対象が入っている可能性もございます。アンケートの集計、分析について業務委託をしている会社がありますので、ご意見についてお伝えし、計画の次期計画の方に反映できるように考えてまいります。	
委 員	アンケートは、どのように自殺対策に反映されるのか。	
事 務 局	自殺対策は坂戸市いのち支える自殺対策計画を基に、全庁挙げて取り組んでいるところです。	

	<p>今回のアンケートは、今までの取り組みを評価し、今後の計画に反映していくことを目的としております。</p> <p>このアンケートの結果を踏まえて、こういった対策が効果的かということをご意見もいただき、計画を策定していきたいと考えております。</p>
事務局	<p>審議事項（４）説明</p> <p>資料４－１ 自殺総合対策大綱（概要）</p> <p>資料４－２ 自殺総合対策大綱（本文）</p> <p>資料５ 第２次坂戸市自殺対策計画策定スケジュール(令和５年度)</p>
委員	子どもたちに対するいじめは、どのぐらい把握できているか。
事務局	<p>現時点で市民健康センターでは、いじめの件数につきましては、把握しておりません。</p> <p>坂戸市においても、10歳代の子どもの自殺者がいることから、子どもの自殺の実態把握や子どもに対する支援のあり方について、教育委員会とも連携して検討してまいりたいと考えております。</p>
委員	令和４年に亡くなった14件の自殺者について原因や要因は明らかになっているか。
事務局	<p>令和４年については、原因の統計がまだ出ていない状況です。</p> <p>令和３年の統計では、健康問題が一番多い原因になっております。健康問題でも様々なものがあり、坂戸市のいち支える自殺対策計画に坂戸市の主な自殺の特徴を掲載しております。</p> <p>プロフィールを分析しながら、どのような支援が必要なのか検討し、計画に反映していきたいと考えています。</p>
委員	<p>共通した概念やあり方を表す言葉を作ることは大切である。ゲートキーパーという言葉聞いたときに、調子が悪い時や死にたいという考えがよぎったときに「この人に相談すればいいのかな」という世の中のあり方を言葉一つが表すものだと思う。</p> <p>ゲートキーパーという言葉を知っている人を増やすということが掲げられているが、本市のアンケートでも知らないという人が大部分だという実態があり、ハードルが高いことだと感じる。</p>
委員	<p>アンケートに答えられていない人の方が、自殺へ繋がってしまう確率は高いと思う。メールや電話で直接相談を受けることもあり、こういったアンケートに答えられていない人に対して、障害者等相談支援センター等地区を担当としている支援者ができることもあると思う。</p> <p>本人や家族だけでなく、問い合わせしてほしい。</p>
会長	<p>本日欠席の委員より、審議事項４その他に関する質問書の提出があったため、報告する。</p> <p>小中高校生の自殺者数が全国で512名と過去最高になった。相談することが決して弱いこと、恥ではないことを理解してもらうことが必要。女性の自殺率が高くなっている非正規雇用、非正規労働に置かれる女性シングルマザーとして孤立している女性へのサポート体制を強化していく必要があると思う。県の電話相談窓口がかかりにくいことを考えると、市として</p>

	24 時間相談を考えてほしい。
事務局	<p>現状では、学校教育課において全児童生徒に対し、いじめ防止や人権教育の観点から S O S の出し方や生命の尊さについて考える授業を教育課程に位置づけて実施しております。また、女性のサポートとして、人権推進課において、専門カウンセラーを相談員として、女性相談を実施しており、今後も関係課と連携し、推進を図っていきたいと考えております。</p> <p>また、24 時間体制でのこころの健康相談については実施していませんが、保健師が相談に対応している他、県が実施しております 24 時間 365 日、専任の相談が対応する埼玉いのちの電話や、平日の夜間や休日の対応している埼玉県精神科救急情報センター、L I N E で心の相談ができるこころのサポート@埼玉などについて市ホームページ等で周知しています。市単独で 24 時間体制の相談窓口を設置することにつきましては、人員体制など、困難な状況ですが、県と相談連携を図りながら、相談体制の充実について引き続き効果的な方法などを検討していきます。</p>
委員	<p>若い人は、SNSでのやりとりが増えており、電話を使用するハードルが高くなっている。身近でない電話での相談は敷居が高いのではないかと思います。私たちの世代は、困ったときは電話や対面でのやりとりで相談と考えていたが、若い世代にとっては SNS の力が大きいということを行政の側からも考えていただきたい。</p>
事務局	<p>市民健康センターにおいても、電話相談の他、メールでの相談などいろいろな手段で相談をいただいております。</p> <p>本人の状況に応じた相談を今後も継続していきたいと考えています。</p> <p>また、埼玉県ではこころのサポート@埼玉という L I N E による相談事業を実施しております。状況に応じて様々な相談手段があるということ、本市としても周知していく必要があると考えております。</p>
会長	<p>学校関係では、相談体制についてどのように行っているか。</p>
委員	<p>教員や養護教諭、さわやか相談員がチャンス相談のような形で、いつでもどこでも誰でも子どもの声を聞き、随時相談を行っている。いじめのアンケートも学期に 1 回ずつ取っている。</p> <p>教員もゲートキーパー養成講座を動画配信等で受講している。</p>
委員	<p>学校側は相談窓口を大きく開いていると思う。子どもたちがそこにノックができるように周知していくことが大切である。</p> <p>交通安全のための普及啓発を市民と一緒にやっているが、子どもたちが手に取って、相談窓口を知るきっかけを作っていく必要があると感じる。</p>
委員	<p>自分で相談したいと言える子はそこで救うことができるが、実際には相談できない子、相談窓口に来られない子のことを考えるべきだと思う。</p> <p>本人の訴えがなくても、周りの目があること、いつもと違う、表情や顔色、洋服の汚れ、そういうところに気が付いてあげられる人を増やすことだと思う。相談窓口に入りやすくする、そういったことももちろん大切だが、声を上げられない、外に出られない人を見つけること、そこに気がついてあげる人がたくさん増えること、学校や会社だけじゃなく、地域でも子どものことを見てあげる目がたくさん増えることが、大事なんだろうと</p>

		思う。	
会	長	以上で、本日の審議事項は全て終了したので、議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。	
事	務	局	以上をもちまして令和4年度第2回坂戸市自殺対策計画審議会を閉会します。ありがとうございました。